

歴史健康ウォーク
「交野かるためぐり
私市編」②

案内人・村田 義朗

令和8年3月14日(土)

京阪・私市駅

午前10時集合出発

交野郷土史かるた
交野古文化同好会が、お父さんお母さんと一緒に子供たちが楽しくかるた取りをしながら、交野の歴史を知って頂けるようにと昭和53年「交野郷土史かるた」が作られた。

【コース】私市駅→土生川→窪坂の湧き水→若宮神社→加賀田用水→磐船街道四辻→私市仁左衛門旧宅跡→私市橋→天野川取口・会所と堰→私市水辺プラザ→天野川の近代土木遺産→加賀田用水取口→星の里いわふね・私市富士登り口・緑の市場・私市いちご復活→弘安地藏→私市駅

絵札を描かれたのは、当時交野市立第3中学校の美術の先生であつた森本順子さんです。



＜私市のアーカイブ＞

- ① 私市駅 生駒電鉄交野線 昭和4年開通
複線化全線完成 平成4年
- ② 水道局 低区給水タンク
1期目は昭和45年 2期目は平成4年
- ③ 江戸末期 私市人口 70軒 280人
- ④ うえん山昭和48年崩す 岩屋道南 つぶれ池
- ⑤ 千手寺の収蔵庫 昭和48年完成
- ⑥ 獅子窟寺に電灯がつく 昭和43年
- ⑦ 獅子窟寺 薬師如来像 S43年国宝に指定
- ⑧ 昭和46年 私市会館新築完成
- ⑨ 昭和49年 私市山手「新町名」実施

右図は計画されていた路線予想図



交野線は近鉄生駒駅に繋がる予定だった!
京阪電車・交野線、実は当時の信貴生駒電鉄によって枚方市駅から近鉄生駒駅まで建設される予定でした。目的は、信貴山朝護孫子寺(しぎさんちようごそんしじ)への参拝客輸送を目論んでいたことでした。

駅→私市駅」間を完成させた昭和4年の直後、「私市駅」から「生駒駅」まではわずか10kmですが、私市より南は急な山間部で難工事が予想され、さらに日本経済を襲った昭和の大恐慌(昭和5、6年)による経営難で、信貴生駒電鉄は「私市駅→生駒駅」間の計画を断念されました。

経営母体は複雑な変遷【信貴生駒電鉄枚方線は1939年(昭和14年)、交野電気鉄道に譲渡、その後、京阪神急行電鉄を経て京阪交野線となる。】をたどり、現在の京阪電鉄・交野線となったのです。
私市駅の前には現在も南向きに長い直線の公園がありますが、延長計画の名残なのです。



昭和30年代の私市駅

若宮神社

私市は昔から一村二社となつてい
ます。江戸時代（宝永1704〜1
711年）、私市村は磐船神社を総
社としていましたが宮座争いがあつ
てまとまらず、その分霊を持ち帰
り、村の入口に宮を建て祀つた。
天田宮があつたので、後から出来
た宮、若い宮と名付けた。

「さいたか さいたか 西念寺
ういたか ういたか 雲林寺
松のたからは 松宝寺」

私市会館

ラジオ体操・秋祭り

和歌山県出身で、終戦（1945
年8月15日）を知らずにファイリ
ン・ルバング島で約29年間戦い続
け、1974年に帰国した軍人・小
野田 寛郎（おのだ ひろお）さんが
講演された。

加賀田用水

江戸時代中頃（1700年代）、
私市の池堂から森の加賀田に用水を
引き、草川を通して私部の官田まで
水を流したのが始まりで、明治16
年頃、天野川の井堰が完成。

その後、大正12年10月の大雨
で諸川が氾濫し加賀田用水堰が崩壊
したため、美田50町あまりが荒野
になり村民は悲嘆に暮れた。私市の
田圃の持ち主であつた西村忠逸氏

▼二左衛門宅（交野市私市・裏口方向より撮影）「にらはん」の屋号で
呼ばれ八幡の八幡宮とのかかわりが深い。25代目当主は平成7年10
月にこの地を離れた。



（1872〜1941）が深くこの
ことを悲しみ、同志たちと水利組合
を組織して復興にあたることにし
た。同年12月に起工し、昭和10
年5月に完成した。上流の堰を復旧
しただけでなく、下流に一つ堰を設
けて、新たな水路をつくった。かが
田の「かが」は利益・利得の意味
で、収穫の多い田と言う意味であろ
う。

私市仁左衛門旧宅跡

私市の四辻（旧磐船街道）から西に
向かって歩くと左手に私市仁左衛門

の旧宅跡があり、今は駐車場となつ
ている。元禄2年（1689）2月
に当地方を訪れた当時六十才の貝原
益軒が仁左衛門宅に一夜を借りた。

貝原益軒は紀行文「南遊紀行」に当
時の天野川の情景を次のように記し
ている。

「獅子窟山より天野川を見下るせ
ばその川、東西に直に流れ、砂川に
水少なく、その川原白く、ひろく、
長くして、恰も（あたかも）天上の
川の形の如し、さてこそ、この川を
天野川とは、只天野川の流れの末ば
かりを渡りて、古人の天野川と名付
けし意を知らず。おおよそ諸国の川
を見しに、かくのごとく白砂のひろ
く直にして、数里長くつづきたるは
いまだ見ず。天野川と名付けしこ
と、むべなり」

▼交野郷土史かるた

伝説 豊かな 天野川

大昔、饒速日命（にぎはやひのみ
こと）が磐樟船（いわくすぶね）に
乗って哮が峰（たけるがみね）に天
降ったという話、また、平安時代に
入って、むかしの甘野川は天の川
となり、天上の天の川にあてはめた
七夕の話等いろんな伝説に富んでい
ます。

これらは天野川流域の農耕文化の

発展を意味していると思われま
す。天の川の源は、生駒山の下の北よ
り流れ出で田原と言う谷を過ぎ、岩
舟に落ち、私市村の南を経、枚方町
の北へ出て淀川に入る。

私市水辺プラザ

平成8年計画策定 19年完成

一級河川天野川の当区間（日の出
橋から八幡橋）約430mには、豊
かな自然環境が残され、多種の動植
物が生息しています。

また、大阪市立大学理学部植物園
や交野市立スポーツセンター、府民の森・ほしだ園地
のほか歴史的価値の高い砂防えん堤
など、訪れた人々にやすらぎを与え
てくれる施設や歴史的価値のある施
設が川に沿って数多くあります。

天野川水辺プラザ整備事業はこう
した自然環
境を保全す
るととも
に、川沿い
にある交流
拠点と連携
し、地域交
流の拠点に
ふさわしい
水辺空間を
創造する。



天野川の近代土木遺産

国登録有形文化財 (明治時代)

①天野川堰堤 1基(石造堰堤、堤長20m、高さ6m)

②尺治川堰堤 1基(石造堰堤、堤長9.3m、高さ2.2m)

③尺治川床固工 1基(石造堰堤、堤長9m、高さ1.8m)

※オランダ人技師デ・レーケの指導により砂防堰堤が築造された。



天野川の歌碑

・和歌 狩り暮らし棚機女(たなばたつめ)に宿借らむ 天の川原に我は来にけり

・歌人 古今和歌集 伊勢物語

・歌意 一日狩りをして日も暮れたので、織姫さまに宿を借りよう。折角、七夕で有名な天の川原に来たのだから。

・揮毫 谷井昭雄氏(元松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)社長)

・建立 2007年5月26日

「解説」 この和歌は、惟喬親王と渚の院で花見をした後、天の川に来て詠った和歌で、1200年前、平安時代の京都の貴族の間で、交野が原が、七夕伝説の里であると知られるようになるきっかけとなりました。

加賀田用水取水口

加賀田用水取水口

加賀田用水取水口

加賀田用水取水口

加賀田用水取水口

星の里いわふね

私市富士

高さ112mの小高い山で、15分程度で登れますが結構きつい。頂上は360度の見晴らしです。

私市のイチゴの復活

「私市の香り」大矢農園(アローズファーム)が10年かけて復活。

私市のイチゴの復活



弘安地藏(私市共同墓地内)

弘安地藏さんは、右手に錫杖を持たない古い形式のもので、頭上とその左右には「右ハ為二浄林浄雲一石作三郎」「弘安四年四月十五日立之」、地藏菩薩を示す梵字「カ」が彫られています。像の右側には「石作三郎」と石工の銘が確認できます。

別名「杖あずけの地藏」さんとも呼ばれていた。生前身につけていたものをこの地藏にあずけて身軽になつてお墓に入る。

人が亡くなると、生前、身につけていたものを地藏堂に預けることで、早く極楽に導いてもらいたいという願いからかもしれません。

庶民の願いを聞いてくださるありがたい仏さまとして、今も大切にまつられています。

拓本により年代・弘安四年(1281)の年号が読み取れた。それ以後、年号の弘安から「弘安地藏さん」と呼ばれるようになった。

弘安地藏さんは、右手に錫杖を持たない古い形式のもので、頭上とその左右には「右ハ為二浄林浄雲一石作三郎」「弘安四年四月十五日立之」、地藏菩薩を示す梵字「カ」が彫られています。像の右側には「石作三郎」と石工の銘が確認できます。



加賀田用水



加賀田用水記念碑



堰と水路の図

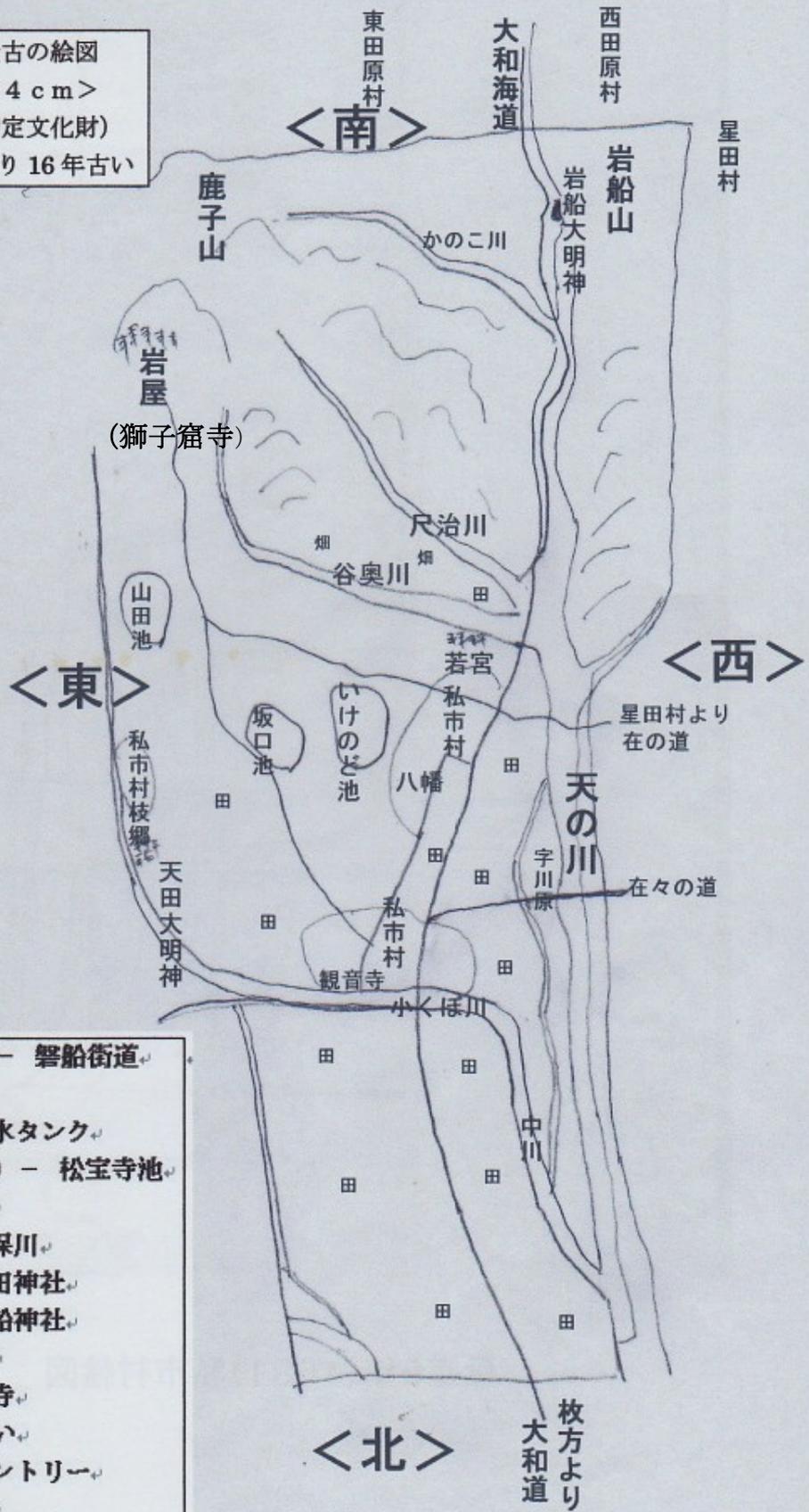


私市富士

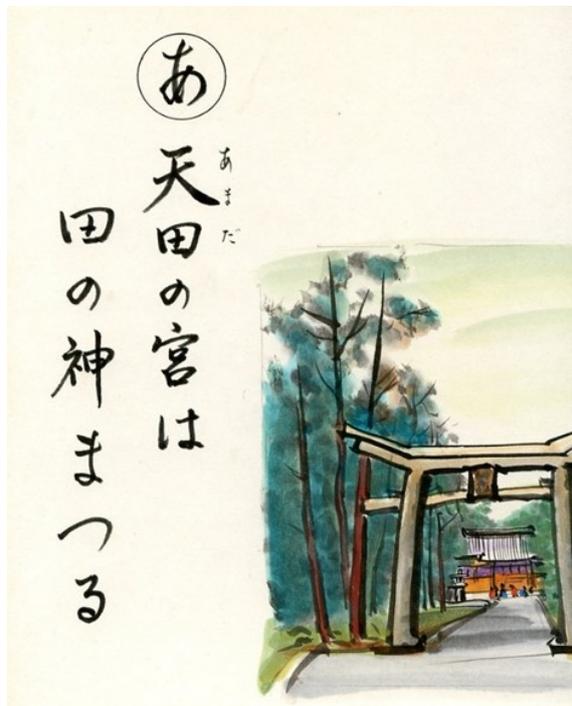
延宝9年（1681）私市村絵図

交野市に現存する最古の絵図
 <縦80cm×横114cm>
 星田村地図（交野市指定文化財）
 元禄10年（1697）より16年古い

私市村領主 設楽肥前守殿
 与力知行役所へ提出した絵図
 私市村庄屋仁左衛門
 年寄清兵衛・同次左衛門



- 大和道（大和海道） - 磐船街道
- 山田池 - 現存
- 坂口池 - 低区配水タンク
- いけのど池（池堂池） - 松宝寺池
- 谷奥川 - 土生川
- 小くぼ川 - 小久保川
- 天田大明神 - 天田神社
- 岩船大明神 - 磐船神社
- 若宮 - 若宮神社
- 観音寺 - 鹿千手寺
- 八幡 - 現存しない
- 鹿子山 - 私市カントリー
- 岩船山 - 噂ヶ峰



私市天田の宮あたりは土地が広く、水がよく行きわたり、稲作には申し分のない良田でした。

こうしたことから三世紀の終わりにかけて、この土地の開発が進みました。

その後肩野物部氏によって周辺一帯が掌握されていった。

【祭神】

表筒男・中筒男・底筒男

息長帯姫命

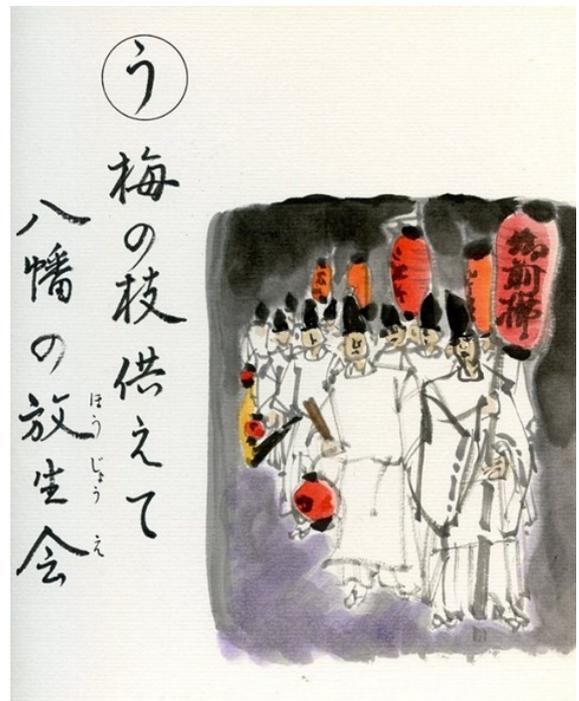
* 甘の川→甘い水→甘い米→甘田
田の神を祀る→甘田宮

磐船神社から500㍍ばかり下ったところに「石清水八幡宮」と彫った石灯籠と梅の古木があります。

これは毎年秋、八幡宮の放生会行列に奉仕する私市の御前払神人が笏(しゃく)と共にこの梅の枝を持って、道を払いつつ、行列をするという由緒ある梅の木です。

* 勅祭石清水祭(放生会)は、貞観五年(863)、「生きとして生けるもの」の平安と幸福を願う祭儀として始められました。

私市からは御前拂神人、森からは火長神人として毎年9月15日の神事に奉仕されています



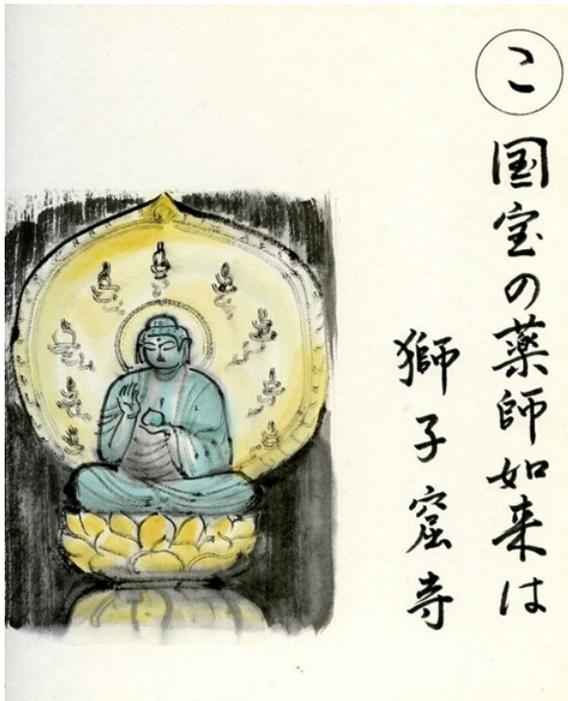
眺望もひらけ、昔から月見に最適といわれたため、月秀山の号をもつ私市の松宝寺は、元々獅子窟寺にあったといわれる12院の塔頭の一つ、松宝院だったと思われます。

現在は融通念仏宗大念仏寺の末寺となっています。

* 十二院とは

吉祥院・松宝院・薬師院・華藏院
愛染院・溪月院・井上院・杉本院
文殊院・日光院・普賢院・西院





獅子窟寺は私市集落から東の山の中腹にあり、真言宗高野山派に属しています。そして本尊の薬師如来坐像は国宝の指定を受けています。

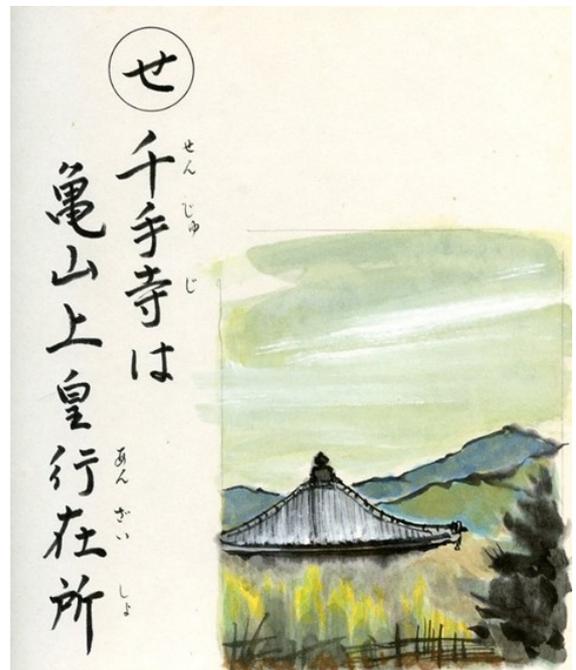
弘仁期(810~824)の作といわれ。カヤ材の一木造りで、すぐれた刀痕をその眉等に残し、衣のひだが翻波式のみごとな衣文を示し、豊かな容姿は木彫像の技巧の頂点に達したかの感があります。

*大阪府下の仏像国宝は獅子窟寺他
葛井寺：千手観音坐像 道明寺：十一面観音像
観心寺：如意輪観音像 金剛寺：国宝・金堂三尊像
(大日如来坐像・不動明王坐像・降三世明王坐像)

千手寺は今廃寺となりましたが、亀山上皇が病気の時、獅子窟寺の薬師如来坐像に祈願され、ここを行在所(あんざいしょ)として千手観音を祀って寺とされました。

安置されている木造・聖観音菩薩立像(平安時代)、木造・如意輪観音坐像(室町時代)は、ともに市指定文化財に指定されています。

*「聖徳太子絵伝」元享三年(1323) 裏書
河内国交野郡師子窟脚(ふもと)井田別所住
□阿闍梨定慧
私市 井出内(いでのうち)観音寺→千手寺

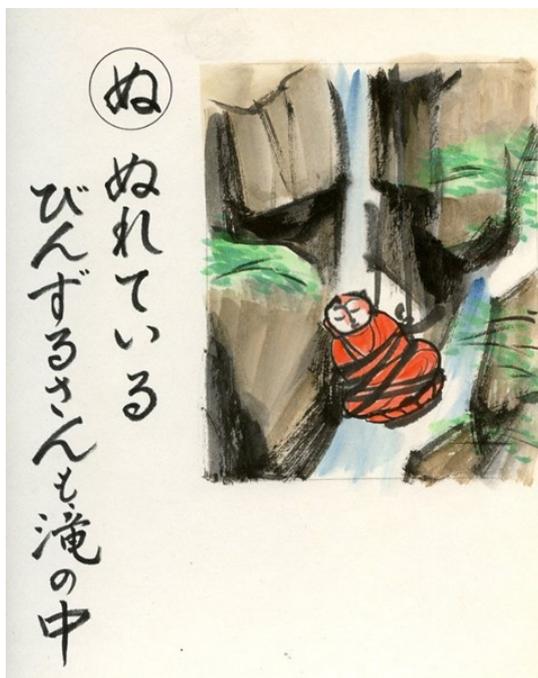


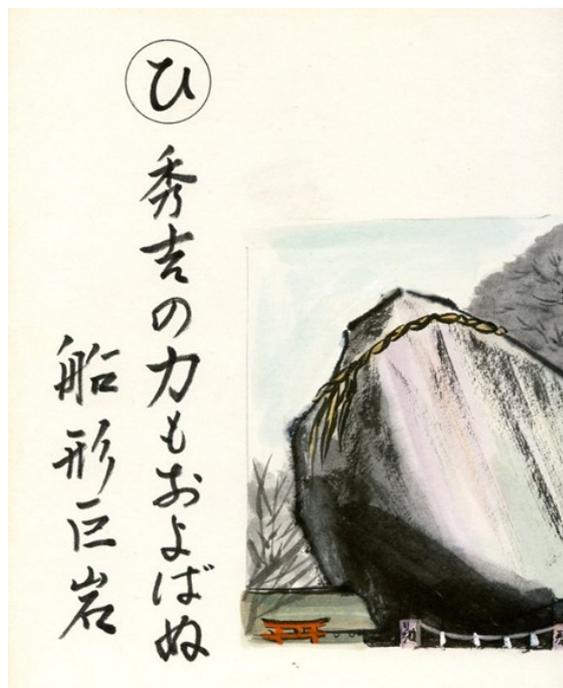
磐船神社から北に「鮎返しの滝」があり、若鮎がここから引き返すのでこの名がついています。

雨乞いの時は賓頭盧さんの赤い顔に白粉(おしろい)をぬって、滝つぼへ吊り下げました。

するとはずかしくて、白粉を洗い落そうと大雨を降らせてくれたといひます。

*昔の百姓は、水を得るためにはどんなことでもしかねなかったので、雨が降るとなると仏様でも滝つぼへ吊り下げたのかもしれない。





豊臣秀吉が大坂城築城の時、諸侯に命じて巨岩を運ばせましたが、この磐船の巨岩もその中に入れられました。

石屋に命じて石を割ろうとしましたが石から血が出たためにそのままにされたと伝えられています。

昔の説話ですが船形の巨岩が生きているような巧みな話といえましよう。

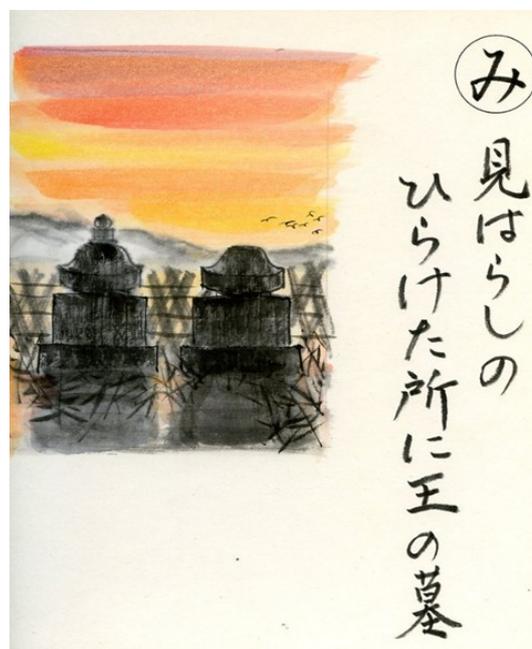
*鳥居をくぐり左側に不動明王石仏(天文十四年：1545)対岸には四社明神(鎌倉時代?)が大岩に彫られています。

獅子窟寺の北東、仁王門址から北へ分かれた藪の中に二基の宝塔が並んでいます。

この付近は昔から百重(ももえ)が原といって、見晴らしがよく古来より、亀山院の分骨とか後亀山天皇陵とかいわれ、一般に王の墓と呼んでいます。

*河内名所図会に描かれた「亀山院陵」は長方形の壇の上に低い土壇を築き、そこに二基の石塔がみえる。石塔は基礎の上に直接屋蓋をのせたものである。

東・西塔とも基壇・基礎・屋蓋を残す。



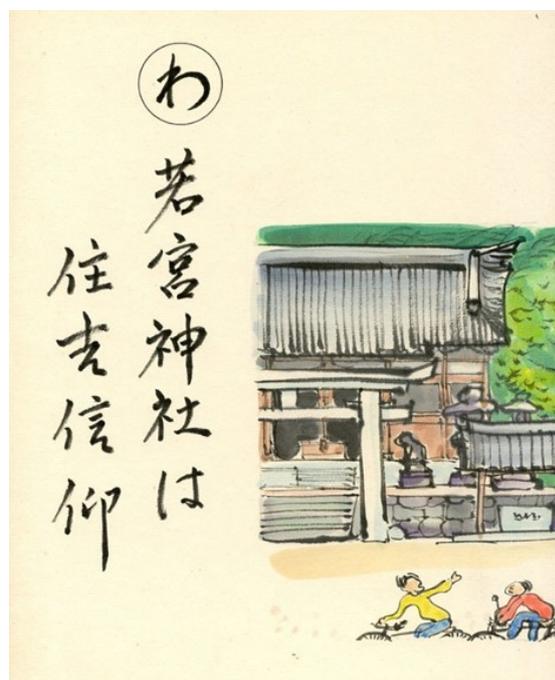
若宮神社は私市の氏神です。

私市は、昔から一村二社となっています。

江戸時代、私市村は磐船神社を総社としていました。

その分霊(住吉神)を持ち帰り、村の入口に鳥居を建ててこの宮を祀り、天田の宮に対してこの宮を若宮としました。

*若宮神社の境内には秋葉さんも、又大神宮灯籠、そして廃蓮華寺まであります。仏様・神さんがお集りになっています。



―交野郷土史かるた― (四十五枚)

そ礎石にしのおぼ 開元寺

ま枕の草子に 野はかた野

た大地震 小松の本尊 谷底へ

④見はらしの ひらけた所に 王の墓

⑤天田の宮は 田の神まつる

ち長宝寺 瓦は語る その偉容

む昔から 交野の春の さくら狩り

い伊丹一族 傍示の里へ

つつくね飯 食らって運ぶ 大鳥居

め免除の源 白旗の池

⑥梅の枝 供えて八幡の 放生会

⑦伝説豊かな 天野川

も門長屋 大きな構えは 代官屋敷

え烏帽子名と 官途名記した えぼしぎ帳

と富くじの 古い記録 星田寺

や八幡の神主 村の名に

お織姫祀る 機物神社

な夏の陣 徳川家康 陣屋跡

ゆ悠久の姿 山頂の岩

かかいがけ のぼれば 地藏が笑う

に西向き本堂 善林寺

よ吉田屋藤七 幕府に進言

き私部城 今は名のみ 城の址

⑧ぬれている びんずるさんも 滝の中

ら雷神が 小便かけた いばり石

く軍書読み 人の集まる 無量光寺

ね念仏を 教え伝えて 明遍寺

り竜王山は 雨の神

⑨月秀山の 夜半の月

の野は狩場 かた野の里は 歌所

る瑠璃光山 薬師寺に 千体仏

⑩国宝の 薬師如来は 獅子窟寺

は八丁三所 星が降る

れ連判状 残す星田の 若い衆

さ酒ぶりに 役人の監督

⑪秀吉の 力もおよばぬ 舟形巨岩

ろ路傍には 東高野の 一里塚

し縄文の 遺跡豊かに 神宮寺

ふ古い民家の 山添家

⑫若宮神社は 住吉信仰

すすそをめぐるは 山の根の道

へ別峯ひらく 光通寺

東京へ五里 大阪へも五里

⑬千手寺は 龜山上皇 行在所

ほ宝形造りの 滝不動